

校長日より

令和三年九月六日

二学期の始業を八月二十五日(水)に行いました。今年の夏休みは年
ぶりに三十五日間という長リ夏休みでした。しかし、新型コロナは収束す
ることなく、第五波の影響でさらに多くの感染者や死者数を更
新しています。なかなかワクチンが進まない中、不安と恐怖だけ
が世の中に広まりました。そして二学期始業式も一学期終業
式にひき続きリモートで行いました。そして生徒に話した内容を紹
介します。くさて現在、天災と病災のほか、東京オリンピック
が行われました。開催にあたっては賛否がありました。リジェ
ルが始まってみると、どの競技も自熟した格闘で、スポーツが持
つ躍動感と感動を私たちに与えてくれました。本来金メ
ダル確実と言われた人たちが予選で敗れたり、金メダルのノーマーク
だった選手がメダルを獲得したりと、様々なドラマがありました。
また史上最多のメダル獲得にゆきました。私が印象的だ
ったのは内村航平選手の鉄棒と女子スケートボード決勝の
岡本みずく選手の姿でした。内村選手はオリンピック4大会に
出場し個人総合三連覇を含む七つのメダルを獲得したスーパ
スターでした。数多くのメダルに悩まされ今回も鉄棒一本に絞リ
練習に取り組んでいました。普段なら難なくこなす入れ替え
の技も本番で失敗、落下となり彼にとってのオリンピックが

終わりました。演技を終えたいインタビューで「僕はもう違
うのよ」この言葉がとても印象的でした。女子スケートホド
岡本選手は世界ララ一位、金メダル確実でした。予選一位で
通過。しかし決勝では本来の實力を出せず、ラスト一本まで位
最終試技で最後の最後まで本当に最高の演技でした。この
ままいけば最低メダル確実と思っただ瞬間、一番難しい技に
あえて挑戦、失敗し四位に終わりました。最後まで金に
こだわった彼女の執念に何か胸に熱いものがこみ上げてま
した。私はメダルを取らんよしも、取れなかった人のドラマば
かりを追い続けていました。皆さんはどうでしたの？、このオリ
ンピックを通じて「感謝するよ」とはどういうものなのかを考えま
せられました。昨日よりパラリンピックが始まりました。各種目の
熱戦が期待されます。ビデオによって家族で観戦したいと
思います。

この二学期は一学期よりも長いですが、あっといふ間に終わ
ってしまいます。それは一学期にできなかった大きな行事が全
て二学期にまわった事で常に何かの行事に追われるからです。
しゅかりと準備しなくてはいけません。一年生は宿泊訓練が十二
月に延期されました。まだ先のことですが、感染予防対策
を徹底し、先生方の指導の下、自分の役割をきっちり

と、なほ、自ら考えて行動してほしいと思います。二年生にと
っては、今学期をどう過ごすかで今後の自分の方向性が決ま
るといっても過言ではありません。上昇していく人、停滞する
人、下降していく人が明日になってきます。先生方も全
力でサポートしてまいりますので、最後まで締めずに全員
で上昇してほしいと思います。三年生はいよいよ道路決定
の時です。十月末には修学旅行もあります。モチベーショ
ンの維持がキーワードになります。様々な行事、テストを乗
り越え、自分の道路を決定するということ。大きな波がやって来
ます。全力で悔いなく乗り越えてほしいと思います。〜

昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響で様々な
事や日常生活に対して制約が加わったり、変更中止になっ
たりと不安な日々が続いています。その中であって水中の
生徒は元気がいっぱい日々生活しています。(様々な事
情でお休みされている生徒もいますが、全員担任と連絡をとっ
ております。)これは保護者の皆様、地域の過かいた支援、ご協力の賜
物だと実感しております。我々教職員同は今学期も感
染防止対策を徹底し、生徒との「心の深化」の為に全カ
で取り組んでいく所存です。今後とも、よろしくお願いい
たします。